

実施報告書： J's こども Labo Net 親子交流会

2025/3/10

【 経緯・背景 】

保護者評価にて「親子行事をしてみたい」とご意見ご要望をうけ、改善の対応として下記の日程、内容で実施することとなった

【 実 施 日 】

2025 年 3 月 9 日 10:00 ～ 13:00 （会場準備 9:00 から 会場撤収 14:00 まで）

【 会 場 】

岩沼市 玉浦コミュニティセンター 調理室、和室

【 参 加 者 】

利用者とその家族、兄弟を含む 29 名 子ども 14 名 大人 15 名

ボランティア：5 名

職員：5 名

【 振り返り 】 利用者と家族の様子

● [REDACTED]（本人不参加、母親と姉が参加）

- ・本人は当日微熱があり、大事を取って不参加となる。
- ・母親と姉はピザ生地をこねる等、手際が良く、片づけに関しても職員補助が不要なほどだった。
- ・同調理台の八巻愛夏さんのお母さんが、姉の通っている保育園の調理員だと知り、会話が弾んでいた
- ・母親の前職が調理系（ゴルフ場場内レストラン）だったこともあって手際が良かった。
- ・姉はピザ作りやビンゴ大会に参加して楽しいと話していた。
- ・お土産用の生地に参加できなかった父親にピザを作ったと話す。

● [REDACTED]（本人と母親、兄が参加）

- ・本人は家族と共にピザ生地をこねる等の工程をこなしていた。離席せず、家族と行動を共にしていた印象だった。好き嫌いの激しい所があるが、ピザは食べていた。家族と共に？雰囲気良かったのかな。
- ・ビンゴの長い時間も離席せず、参加していた。
- ・現在本人との関係に少し悩んでいる兄も弟（本人）の世話をしながらピザ作りをしていた。
- ・待ち時間では、皆でパズルをする姿があった。
- ・ビンゴは兄が楽しんでいたのが良かった
- ・家族から数年ぶりに大変楽しかったとコメントがあった。

● (本人、両親、弟が参加)

- ・母親が上手く声をかけながら、本人と共にピザ作りに参加していた。時折、離席するが家族が上手く対応している印象だった。ピザを食べずに持参したおにぎりを食べていた。今後も、捕食持参を継続していく。
- ・母親は弟を背中におんぶしながらピザ作りを行っており、大変そうな印象だった為ボランティアが一旦預かり作業を進めてもらった。
- ・父親も本人の様子を見守りながら、トイレ誘導や離席に同行している印象だった。父親もピザ作りは楽しいと話していた。
- ・待ち時間では、エントランスでスマホを眺めたり、外にいる鳥に呼びかけたりと穏やかに過ごしていた。

● (本人と母親が参加)

- ・本人用にラボの机を持参し、車いすに乘車しながらピザ作りを行った。別場所を設けて少し狭いかなと思った。時折、服が汚れるのが嫌だと話すのが聞こえてきたが、母親からチャレンジするように促されていた。終始楽しそうな印象だった。
- 食事会の最後にごちそうさまの挨拶を担当した。元気よく挨拶をしていた。
- ・母は送迎時の雰囲気より、柔らかい雰囲気終始過ごしており本人が他児と遊ぶ様子を廊下の椅子から眺めるなどリラックスして過ごしていた。
 - ・会終了後、ラボ携帯に職員の出し物の動画と楽しかった、という感想を送ってくれた。

● (本人と妹、両親が参加)

- ・ピザ作りに時折参加し、両親の傍に居た。紙を持ち、それを投げて遊んでいた。
- ・ピザ作り中に部屋を出ることがあり、館内を散策中にズボンを脱ぐなどの行為があった為、常にボランティアと職員が交代で見守る必要があった。ダブルクリックをもって遊ぶ姿があった。おもちゃというものではなく自身で落ち着くものを探して遊んでいた。
- ・父親からピザ作りは楽しいと話があった。

● (本人と両親が参加した)

- ・当日の朝に実施時間を確認する電話があった。その後、JOCA 東北に到着したと土日祝日当番から連絡があり、車がないのでどうしたらいいかと問い合わせがあった。急遽、職員が迎えに行った。家族からはチラシが手元になかったと話があった。
- ・本人は大きな声を出したり、離席する場面が見られたが、家族や職員がその都度対応していた。本人は臀部を触ることが多く、その都度手洗いを促されていた。
- ・会食が始まってからは家族皆で穏やかに過ごしていた。

● (本人と母親と弟が参加)

- ・本人は積極的にピザ作りに参加していた。兄弟とも仲がいい印象があった。食事会のごちそうさまの挨拶時に照れながらも挨拶をしていた。疲れたなど弱音を吐くこともなく集中してピザを作っていた。
- ・母親も子供たちにピザ作りを促しながら、上手にピザを作っていた。
- ・待ち時間では家族全員で外へ行き鬼ごっこなどをして過ごしていた。

● (本人と姉と母親が参加)

- ・いつものラボだと集中力がなく、離席することが多いが、家族と参加するといつもと違い、終始恥ずかしそうに職員とはあまり目を合わせずピザ作りに参加していた。ラボでの活動時のギャップにラボ職員は驚いた。母親は大人しい本人の姿しか想像できない様子でこの落ち着きはいつもの事では？と上手く想像できない可能性がある。場所ごとに自分を使い分けていると思われる。
- ・母親も姉も本人と共に楽しそうにピザ作りを行っていた。

● (本人と父親が参加)

- ・本人は父親と楽しそうにピザ作りを行っていた。
- ・待ち時間では、親子でボードゲームをしていた。本人は何度も廊下の窓から調理室を覗き、進行状況を職員や父親に伝えていた。
- ・父親からピザ作りは楽しいと話があった。後片付けも率先して行っていた。当日の夜に参加できなかった妻にピザを作ったと相談員太田さんへ連絡をしたようだ。

● (本人と両親が参加)

- ・両親にピザ作りを促されながら積極的に参加し、高橋家のピザは本人が作っていた。
- ・昨年 11 月から利用を開始。当初父親は、放デイを利用することに反対していた。
交流会は両親ともに参加してくれ、父親からは「調理はしないがピザ作りは家でもやってみたい」と話があった。

● (当日キャンセル)

- ・母親と 2 名での参加予定だったが、当日、微熱ありキャンセルとなった。
当日中にお土産を届けた。

【 振り返り 】 事前準備

- ・2/10（月）に会場を借りて事前練習を行っていたので、当日の準備はスムーズに行うことが出来た。
- ・職員の参加予定人数を大幅に超えたこともあり、事前準備の下ごしらえが時間内に終わらず、そのバタバタがピザ作り実施時間に影響を与えてしまった。生地分量は事前に計っておくなど前日にできるようなものをもっと探しておくべきだった。」

準備の段階からボランティア、利用者家族に依頼する必要を感じた。

【 振り返り 】 イベント時

- ・多くの参加者が居たため、利用者家族とゆっくり会話をする時間を設けるのが難しいほど職員が終始慌ただしかったが、佐々は調理に入らずウロウロしていたので、保護者とは一通り話すことができた。
- ・業務用のオーブンは火力が強く、参加者のピザを焦がさないように焼くことが難しかった。前半組のピザが冷めないように名前が記入してある付箋と共にラップに包む作業が大変だった（発砲ケース利用）
- ・ピザ作りの後半組の待ち時間が長く、持て余す感があった。
- ・前半組は工程をこなすスピードに違いがあった。足並みをそろえるのに時間がかかった。

【 振り返り 】 イベント全体を通して

- ・普段、送迎時に遭遇できない家族と交流できたことは大きな収穫。
利用者が家族の前ではどう様子が違うのかを垣間見れてよかった。
職員と利用親子の距離が縮まった、親子交流会としては大成功だったと思う。
- ・ボランティアの力なくして実施は難しかった。ボランティアに支えられていたと痛感した。
- ・利用者家族にもっといろいろと頼って（以前準備や運営側に巻き込む）行きたいと思う。
- ・自家用車がない家族もいるのでイベント会場設定は今後慎重に行うべきだと感じた。
- ・翌々は親の立案を職員が補助をおこなうようにしていきたい。
- ・ボランティアが写真を上手に撮影してくれていた。